



2022年5月11日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 コ ロ ワ イ ド  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 野 尻 公 平  
(コード番号 7616 東証プライム市場)  
問 合 せ 先 取 締 役 瀬 尾 秀 和  
( T E L 0 4 5 - 2 7 4 - 5 9 7 0 )

連結子会社における「特別利益、特別損失の計上及び業績予想と実績との  
差異に関するお知らせ」及び  
「個別実績と前期個別実績との差異に関するお知らせ」について

当社の連結子会社であるカッパ・クリエイト株式会社（本社所在地：横浜市、代表者：代表取締役社長 田邊 公己）におきまして、添付資料のとおり「特別利益、特別損失の計上及び業績予想と実績との差異に関するお知らせ」及び「個別実績と前期個別実績との差異に関するお知らせ」を本日発表しましたので、お知らせ致します。

尚、当社の2022年3月期連結業績に与える影響につきましては、2022年5月11日に別途開示致しました「その他の営業費用（減損損失）、金融収益（為替差異）、及び金融費用（株式評価損）の計上並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

以上



2022年5月11日

各 位

会 社 名 カップ・クリエイト株式会社  
代表者名 代表取締役社長 田 邊 公 己  
(コード番号 7421 東証プライム)  
問 合 せ 先 経 理 部 長 志 村 葵  
(TEL 045-224-7095)

### 特別利益、特別損失の計上及び業績予想と実績との差異に関するお知らせ

当社は、2022年3月期において、特別利益、特別損失の計上をするとともに、2021年11月9日に公表いたしました2022年3月期の通期連結業績予想と本日公表の実績値との差異につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

##### 1. 特別利益の計上について

当第4四半期連結会計期間において、新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、政府・自治体からの要請に伴う店舗臨時休業や営業時間短縮などに対し実施されました雇用調整助成金及び時短営業協力金778百万円を助成金収入として特別利益に計上いたしました。

これにより2022年3月期における助成金収入の累計計上額は、3,302百万円となりました。

##### 2. 特別損失の計上について

###### (1) 減損損失

当第4四半期連結会計期間において「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく回収可能性を検討した結果、新たに104店舗および1工場に対し409百万円の減損損失を計上いたしました。

###### (2) 臨時休業等による損失

当第4四半期連結会計期間において、営業時間短縮に伴う従業員の雇用維持のための休業手当162百万円を臨時休業等による損失として特別損失に計上いたしました。

これにより2022年3月期における臨時休業等による損失の累計計上額は、508百万円となりました。

### 3. 通期業績予想と実績との差異

(1) 2022年3月期通期連結業績予想と実績との差異(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	69,564	△1,060	△983	1,446	29.31
実績値(B)	67,206	△2,113	△1,889	736	14.92
増減額(B-A)	△2,357	△1,053	△906	△709	
増減率(%)	△3.4	—	—	△49.1	
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	64,881	△1,572	△1,472	△1,149	△23.31

(2) 通期連結業績予想と実績との差異の理由

2022年3月期通期業績は、新型コロナウイルス感染症「オミクロン株」が流行し2022年1月より再び、まん延防止等重点措置が適用されたことで時短営業の解消時期の見込みが予想よりも遅れ、個人消費の低迷も続いたことなどの影響から売上高は前回予想を下回る結果となりました。利益面におきましては、原材料価格・物流費の高騰により売上総利益が減少したため、販売費及び一般管理費の抑制に取り組んだものの営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を下回る結果となりました。

以上



2022年5月11日

各 位

会 社 名 カップ・クリエイト株式会社  
代表者名 代表取締役社長 田邊 公己  
(コード番号 7421 東証プライム)  
問合せ先 経 理 部 長 志村 葵  
(TEL 045-224-7095)

## 個別実績と前期個別実績との差異に関するお知らせ

2022年3月期個別実績と前期個別実績につきまして、差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。

記

### 1. 2022年3月期個別実績と前期個別実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前期実績(A) (2021年3月期)	52,249	△1,816	△1,705	△1,321	△26.79
当期実績(B) (2022年3月期)	52,979	△2,456	△2,297	301	6.12
増減額(B-A)	730	△639	△591	1,623	
増減率(%)	1.4	—	—	—	

### 2. 差異の理由

2022年3月期におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う店舗休業や営業時間の短縮、外出自粛による個人消費の低迷などの影響により売上高の回復に遅れが生じたため、売上高は前期と同水準の結果となりました。利益面におきましては、原材料価格・物流費の高騰や積極的なプロモーション活動による販売促進費の増加などの影響を受け、営業利益及び経常利益では前期を下回ることとなりました。しかしながら、当期純利益におきましては、時短協力金などの助成金収入があり前期を上回る利益を確保することができました。

以上